

運営推進会議・会議録		承認	確認	作成
		佐藤	鈴木	小松
開催日時	令和 7 年 5 月 27 日(火)	10：00 ～ 11：00		
開催場所	特別養護老人ホームわかば イースト 会議室			
出席者	お客様・ご家族様代表 地域の方代表 地域包括支援センター 有識者の方 第三者委員 特養わかばウエスト施設長 わかば会障がい統括 特養わかばイースト施設長 特養わかばイースト介護主任 特養わかばイースト生活相談員			
項 目		内 容		
目的		2025 年度 第 1 回運営推進会議 地域密着型サービスにおける運営推進会議は、事業者が提供するサービス内容を明確にし、地域に開かれたサービス運営を通じてサービスの質を確保することを目的としています。		
活動状況報告		1, お客様推移 2025.4～2025.5 4 月お客様の変動なく 29 名である。 5 月お客様が一人お亡くなりになり、新しくお客様が入居されたため 30 名である。男性 7 名 女性 22 名。 平均年齢 88.2 歳、最少年齢 69 歳、最高年齢 100 歳。 平均介護度 3.8。 2, ヒヤリハット、事故、苦情について 4 月ヒヤリハット 0 件。事故 3 件。 5 月ヒヤリハット 0 件。事故 1 件。 苦情はなかった。 事故の原因に「車椅子のブレーキをかけ忘れた」とあるが、普段はどのように車椅子を使用しているのか。また、床に落ちているゴミを拾う際は前のめりだったか、横からだったか。		

普段は自走して生活している。そのため、ゴミを拾う際は前のめりだった。お部屋にいる際は小窓を開けて見守るようにし、ブレーキのかけ忘れがあった場合はその都度声かけをしている。今後、前のめりになって物を拾うことがないよう、環境を整備していく。

5月の事故に関しては、お客様が体調不良のためポータブルトイレを利用しており、車椅子からポータブルトイレに移乗する際、脚に力が入らず床に座ってしまった。

苦情0件とあるが、お客様から何か要望等はあるか。

天気がいい日は散歩、ドライブに行きたいなど。
レクリエーションとして4月に花見ドライブを開催した。

3、レクリエーションと行事

4月 お花見ドライブ

5月 ボランティアレク（読み聞かせ、ドンパン節）、100歳お祝い会
わかば通信とともに紹介

100歳を迎えられた方はお祝い会で特技のハーモニカを披露されていた。
他のお客様が誕生日を迎えられる際にも、居室を訪れ
「ハッピーバースデートゥーユー」等を演奏されている。

このような特技を持つお客様はとても貴重である。
他のレクの際にも、積極的に協力をお願いした方がよいのでは。

4、研修、勉強会

4月

社内研修：排泄介助（オムツ・パットの正しいあて方、陰部洗浄の方法）
についての研修、管理者研修

社外研修：誤嚥性肺炎の予防を意識した衛生管理

5月

社内研修：移乗介助についての研修、非常災害時の対応について
（避難訓練）、管理者研修

社外研修：地域ケア会議、ケアマネ研修

「誤嚥性肺炎の予防を意識した衛生管理」では、具体的にどのようなことを学んだのか。今後、伝達講習等はあるのか。

二人一組で行う食事介助の方法等について学んできたそう。また、3月に行われる研修で施設内の共有も行われる予定。

5, 職員の状況

- 介護職員・・・・・・・・・・16名 介護福祉士・・・・・・・・・・11名
実務者研修修了・・・・・・・・・・1名
初任者研修修了・・・・・・・・・・2名
初任者研修受講予定・・・・・・・・1名
- 看護師・・・・・・・・・・3名
- 機能訓練指導員・・・・・・・・1名（非常勤専従 作業療法士）
- 生活相談員・・・・・・・・・・1名
- 管理栄養士・・・・・・・・・・1名
- 管理者兼介護支援専門員・・・1名

6, 委員会

・虐待防止検討委員会

部門会議、ユニット会議、リーダー会議等で不適切ケアにあたる事例はなしと確認する。

・身体拘束廃止委員会

部門会議、ユニット会議、リーダー会議等で不適切ケアにあたる事例はなしと確認する。

・見守り機器等活用委員会

令和6年度秋田県介護テクノロジー活用支援補助金で見守り機器29台導入
体動アラートを設定し、お客様の生活リズムの把握を行い、事故防止の対策
に活用している。

職員向けのアンケートを実施し、負担軽減と夜間の休息時間の確保のための
業務の流れを検討中。

機器の不具合等がないよう、定期点検を実施。

7, その他

今回初参加の方が多いので、改めて運営推進会議について説明する。

運営推進会議は、2ヵ月に一回、地域密着型の施設で行われる会議である。

会議では、施設の運営状況や、施設がお客様の要望に応えられているかを話し
合う。施設の運営をより良いものにするために、参加されたご家族様には、屈
託のないご意見をいただきたい。

8, 皆様からの要望、ご助言等

「ありがたい」の一言に限る。

自宅では母の安全を確保できないと心配していたが、施設では、何かあっても

対策を教えてもらえるため安心である。また、施設に入所してからは、母が職員の顔を見ると笑顔を見せるようになった。母を大事にしてもらえることは本当にありがたい。

一つ気になる点は、母が日々どんなところで生活しているのかである。写真でも良いので、居室の様子を見せてほしい。

LINE を通して部屋の写真をお見せすることは可能である。

また、ビデオ通話等を利用してお見せすることもできる。

父も面会に来ているが、母と離れて暮らすことには寂しさを感じているようだ。刺身など、自宅で食べたものを母にも持っていきたいと言って聞かないので、父を止めるのが大変である。

6月に認知症の方やそのご家族を対象にした「オレンジカフェ」を開催予定である（併せて資料を配布）。また、高齢者向けの体操などを行う介護予防教室も開催予定である。

特別養護老人ホームは建物が外から見えても中でどのような人が生活しているのか地域の方からは分かりにくい。そのため、閉鎖的なイメージを持たれがちである。運営推進会議では、外部から来た方々が施設どのようなことを望んでいるかを聞くことで、職員も気づきを得るきっかけになり、より質の良い支援につながる。

【次回開催予定】

令和7年7月29日（火）10：00～